

## メッセージアウトライン

### コロサイ人への手紙 4:5～6 「親切で塩味のきいたことば」

[5] 「外部の人に対して賢明にふるまい、機会を十分に生かして用いなさい」

「外部の人」とはクリスチャン（キリスト者）でない人のこと。

ここではクリスチャンはクリスチャンでない人たちに対して、どのようにあるべきかが教えられている。

I 「賢明にふるまう」こと。

その理由は

- ①クリスチャンの思慮を欠いた言動によって外部の人々をさらにキリストから遠ざけてしまわないため。
- ②この世の流れに流されて行って世俗的にならないため。
- ③いつ自分の信仰について語るべきか、あるいは口を閉ざして相手の話に耳を傾けるべきか、賢明に見極めなければならない。私たちは、しばしば語るべきところで黙っていたり、ふさわしくないところで語ったりすることがある。

人はクリスチャンを通してキリストを見る。人がキリストに引きつけられるのも、反発するのも、クリスチャンのことばよりも、その生き方によることのほうが多い。

II 「機会を十分に生かして用いる」こと。

これはイエス・キリストのことや福音を伝えたりする機会、あるいはクリスチャンにふさわしい行動をとる機会のこと。私たちの日常生活において、そのような機会はしばしばやって来る。そのような時に沈黙したり、何もしないでいるのではなく、その機会を十分に生かして用いることが大切である。

[6] 「あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります」

ここではクリスチャンのことばの使い方が取り上げられている。

- ①「いつも親切で」…いつも聞く人をひきつけることができる優しさを持ったことばを使う。この逆は不親切、とげのある横柄なことばであろう。この「親切なことば」とは単なる話し方のコツとかテクニックといったものではない。絶えずキリストの恵みを受け、経験している者として神の御名を汚すことのないように、また聞く人の徳を建てるものであろうと絶えず心がけていることによって出て来る謙遜や、優しさを持つことばである。
- ②「塩味のきいた」…料理をおいしくするコツのひとつは塩加減であると言われる。私たちの話すことばも退屈な無味乾燥なものにならないように適度に味付けして、ユーモアや魅力と活気のあるものとする必要がある。

私たちクリスチャンを待っているものは、罪赦された者としての復活の希望、永遠のいのち、天の御国、先に召された友人や家族との再会、新しい天と新しい地、もはや死もな

く涙も悲しみもない世界である。それゆえ、私たちは教会の外部の人々に対して賢明にふるまい、時をよく見分けて、機会を十分に生かして用い、いつも親切で塩味のきいたことばを用いて人々に接する者となり、私たちのうちにある希望と喜びを語り伝える者になりたい。